

# 2011年3月期 決算説明資料



ヴィンキュラム ジャパン株式会社

2011年5月24日

**JASDAQ**

Listed Company 3784

# 目次

---

## 1. 2011年3月期 決算の状況

◇決算のポイント	… 4P
◇経営・営業トピックス	… 5P
◇2011年3月期通期実績	… 9P
◇2011年3月期上期下期増減分析	…10P
◇四半期業績推移	…12P
◇分野別状況	…13P
◇財政状態	…18P
◇キャッシュ・フローの状況	…19P

## 2. 新中期経営計画

◇中期計画の見直しについて	…21P
◇マイカル様吸収合併の影響について	…22P
◇3つの基本戦略	…23P

◇特定顧客化戦略	…24P
◇グローバル戦略	…26P
◇商品戦略	…28P
◇中期数値フレーム	…29P

## 3. 2012年3月期 業績予想について

◇2012年3月期業績予想	…30P
◇配当方針	…32P

# 1. 2011年3月期の決算の状況

# 決算のポイント

## <通期総括>

### グループカの結集と構造改革の着実な推進による黒字化の達成

#### 収益構造改革

- ◆中国への業務移管や人件費・経費の圧縮などの収益構造改革の効果

+

#### VJCグループ内の役割分担の明確化

- ◆VJCグループ内の役割分担を明確化し業務効率の最適化をすることで、大幅に利益率が改善

- ◆連結売上高わずかに減少(前年比98.8%)  
アウトソーシング分野は増加、ソリューション分野、プロダクト分野は新規システム投資案件抑制の影響により減少
- ◆連結営業利益など各利益とも黒字化を達成
- ◆個別業績は、売上高、営業利益、経常利益で業績予想値をクリア  
→構造改革の成果  
※当期純利益は特別損失の計上により業績予想値を下回る

## 進展するグローバル戦略

### ✓グループ企業のオフショア開発スタート

- ◆VCCが当社親会社の富士ソフトからオフショア開発を受託  
→富士ソフトがVCC(※)へ出資、富士ソフトグループのオフショア拠点へ  
※維傑思科技(杭州)有限公司

### ✓上海ヴィンキュラム(上海新域系统集成有限公司)設置

- ◆中国における営業拠点
- ◆回線リセール事業、eコマースソリューション開始  
※プレスリリース 中国・上海市に新会社設立(2011年2月28日)

### 「事例」

- ◆大手総合小売業グループの情報子会社へ中国代表処開所支援  
→VCC内に大手総合小売業グループの情報子会社の中国代表処を開所  
※開所までをフルサポート、顧客との関係強化  
※顧客の中国・アジア戦略に追随する足がかり

## 新しいコアコンピタンス

### ✓国内及び海外でのサポート力

◆当社及びVCCのIT環境・人材・ノウハウとサービスコンテンツを利用し、国内でのIT投資削減、海外進出時のノウハウと日本品質の提供などトータルにサポート

### ✓ハイブリッド運用

◆関西(国内)での立地と中国(海外)の拠点から分散化されたシステム運用を実現(リスク分散によるシステム運用の Availability 向上)

### ◆大手総合小売業グループにおける大型アウトソーシング案件受注

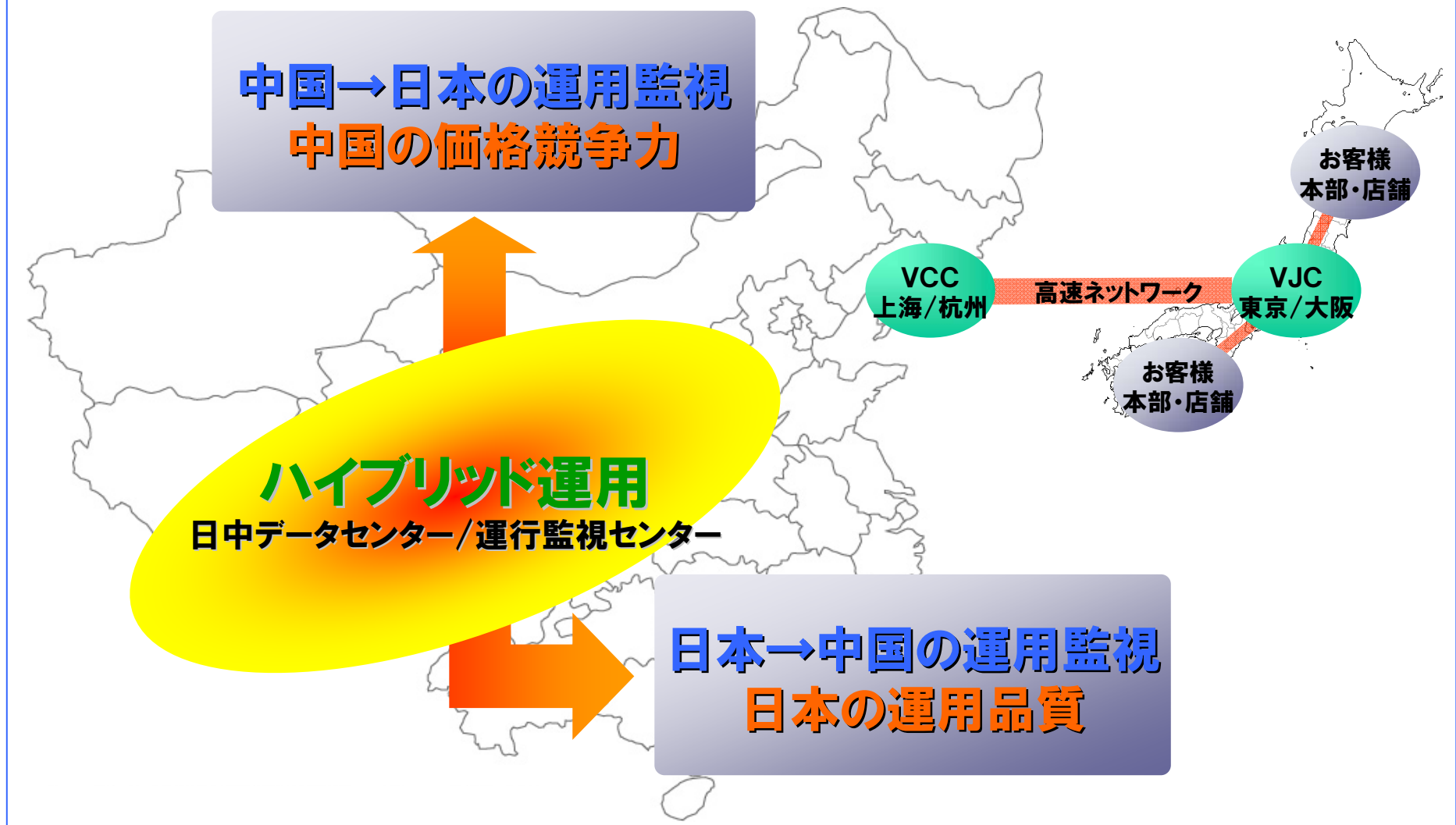
◆「統合ヘルプデスク」、「会計BPO(※)」  
※BPO...「ビジネスプロセスアウトソーシング」

#### ◆受注要因

1. 中国子会社を利用したIT投資削減効果の実績と期待
2. 国内及び中国の統合サポート
3. 流通小売業に精通した運用ノウハウと高い運用品質

# 経営・営業トピックス

## サポートケーパビリティの向上(リスク分散による可用性の向上)



# 2011年3月期 通期実績

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

## 連結

	実績		開示対比(10月25日開示値)				前年対比			
	実績	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	9,273	—	102.0	183	9,090	—	98.8	△113	9,386	—
売上総利益	1,940	20.9	97.8	△44	1,984	21.8	154.2	682	1,257	13.4
販売管理費	1,717	18.5	101.4	23	1,693	18.6	99.6	△7	1,724	18.4
営業利益	222	2.4	76.6	△68	291	3.2	—	689	△466	△5.0
経常利益	215	2.3	77.0	△64	280	3.1	—	655	△439	△4.7
当期純利益	96	1.0	70.3	△41	138	1.5	—	460	△363	△3.9

## 個別

	実績		開示対比(10月25日開示値)				前年対比			
	実績	売上比	開示比	開示差	開示値	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	8,515	—	104.6	375	8,140	—	96.4	△317	8,832	—
売上総利益	1,672	19.6	102.6	42	1,630	20.0	147.4	537	1,134	12.8
販売管理費	1,455	17.1	101.5	21	1,433	17.6	97.5	△36	1,491	16.9
営業利益	217	2.6	110.3	20	197	2.4	—	574	△357	△4.0
経常利益	218	2.6	109.3	18	200	2.5	—	570	△351	△4.0
当期純利益	35	0.4	46.1	△41	77	0.9	—	333	△297	△3.4



# 2011年3月期 上期増減分析

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

上期			前年対比			
	実績	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	4,479	—	94.2	△277	4,757	—
売上総利益	925	20.7	219.4	503	421	8.9
販売管理費	857	19.1	92.1	△74	931	19.6
営業利益	67	1.5	—	577	△509	△10.7
経常利益	76	1.7	—	587	△510	△10.7
当期純利益	9	0.2	—	412	△402	△8.5

## ✓売上高

上期売上高は減少(前年対比94.2%)

(+)アウトソーシング分野が中国の日系大手企業様向け案件の増加などにより順調

(-)ソリューション分野、プロダクト分野が投資抑制の影響により減少

→ただし、2Q以降プロダクト分野は受注状況改善

## ✓利益

営業利益・経常利益・純利益の黒字化

(+)収益構造改革、グループ内の役割分担の明確化の効果

(+)2Q以降の受注状況の改善による要員稼働率の大幅上昇

# 2011年3月期 下期増減分析

単位：百万円、%、百万円未満切捨て

下期			前年対比			
	実績	売上比	前年比	前年差	前年値	売上比
売上高	4,793	—	103.5	164	4,629	—
売上総利益	1,014	21.2	121.4	178	836	18.1
販売管理費	859	17.9	108.4	66	792	17.1
営業利益	155	3.2	360.3	112	43	0.9
経常利益	139	2.9	195.0	67	71	1.5
当期純利益	87	1.8	221.7	48	39	0.9

## ●売上高

下期売上高は改善(前年対比103.5%)

(+)アウトソーシング分野で中国でのアウトソーシング、既存顧客との関係強化により順調に推移(前年対比では下期における回復傾向が鮮明)

(-)ソリューション分野、プロダクト分野など前年割れだが受注状況は改善

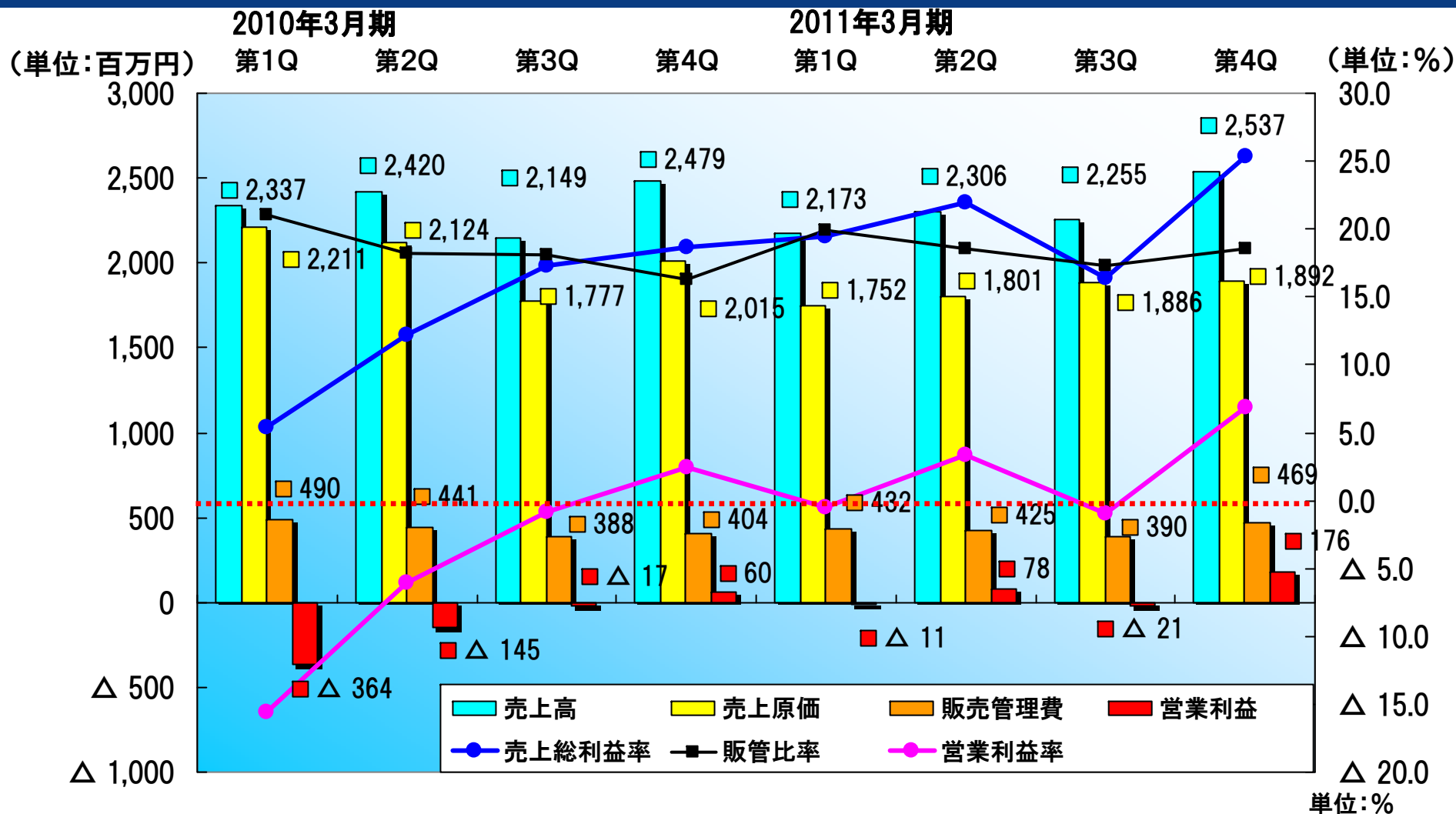
## ●利益

営業利益・経常利益・純利益の黒字化

(+)収益構造改革、グループ内の役割分担の明確化の効果

(-)特別損失の計上

# 四半期別 業績推移



	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
売上総利益率	5.4	12.2	17.3	18.7	19.4	21.9	16.4	25.4
販管比率	21.0	18.2	18.1	16.3	19.9	18.5	17.3	18.5
営業利益率	△ 15.5	△ 6.1	△ 0.8	2.4	△ 0.5	3.4	△ 0.9	6.9

# アウトソーシング分野の状況

## アウトソーシング分野

(システム運用・管理サービス、保守、ヘルプデスクサービス、ASPサービス等)

### ✓活動結果サマリー

- ・主要顧客へ注力、案件獲得は予定通りに推移(新規案件も受託)
- ・中国子会社の運用案件受託により増加
- ・既存運用受託案件についても収益構造改革継続により営業利益が大幅に改善

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	実績		開示対比				前年対比			
			※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値
売上高	4,166	44.9	98.7	△53	4,219	46.4	108.0	309	3,856	41.1
売上総利益	713	17.1	103.4	23	689	16.3	431.4	547	165	4.3
営業利益	240	5.8	109.8	21	218	5.2	—	449	△209	△5.4

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

# ソリューション分野の状況

## ソリューション分野

(流通サービス業基幹システム、クレジットカードシステム、Webシステムの開発)

### ✓活動結果サマリー

- ・売上高は投資抑制などの影響で新規案件が減少し前年対比減
- ・営業利益は、収益構造改革・グループ役割分担徹底により改善し黒字を確保
- ・受注状況は下期以降改善

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

			開示対比				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	2,776	29.9	100.1	1	2,775	30.5	90.2	△302	3,079	32.8
売上総利益	501	18.1	80.4	△121	623	22.5	102.6	12	489	15.9
営業利益	82	3.0	44.2	△104	187	6.7	119.8	13	69	2.2

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

# プロダクト分野の状況

## プロダクト分野 (流通サービス業向けパッケージ開発、販売)

### ✓活動結果サマリー

- ・売上高は、第2Q以降は受注状況が大きく好転、ただし前年大型案件の反動で前年対比減
- ・利益面は、稼働率が大幅に上昇したこと、グループの役割分担明確化により利益率大幅改善

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	実績		開示対比				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	905	9.8	87.7	△127	1,032	11.4	89.7	△104	1,009	10.8
売上総利益	435	48.1	86.0	△71	506	49.0	127.8	94	340	33.7
営業利益	258	28.5	81.2	△59	318	30.8	397.5	193	64	6.4

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

# その他IT関連分野の状況

## その他IT関連分野 (ハードウェア販売、移設展開サービス、その他ITサービス)

### ✓活動結果サマリー

- ・売上高は前年同様で推移
- ・下期で顧客向け販促強化の為の処理が増加し、利益率改善

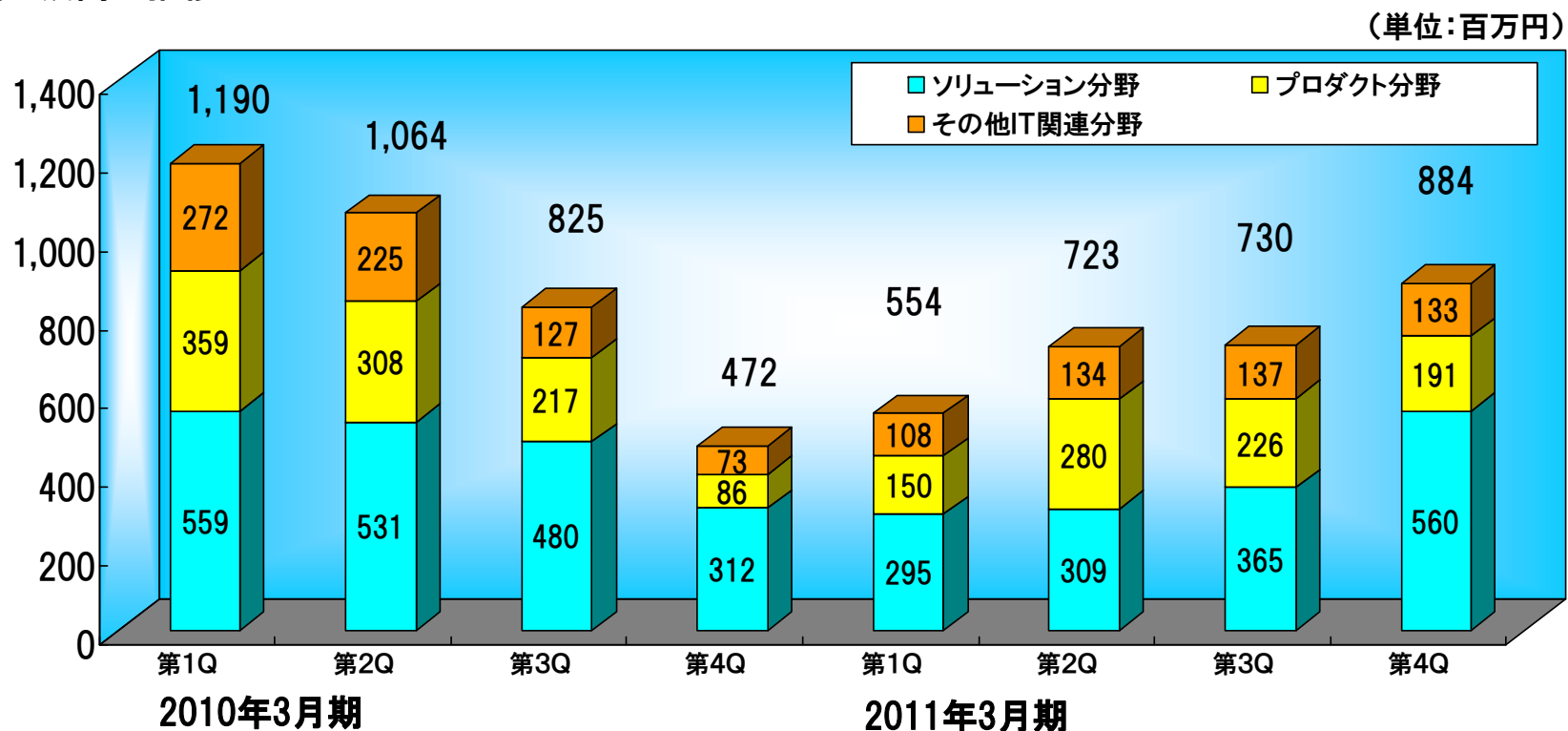
単位:百万円、%、百万円未満切捨て

	実績		開示対比				前年対比			
	実績	※比率	開示比	開示差	開示値	※比率	前年比	前年差	前年値	※比率
売上高	1,425	15.4	134.1	362	1,062	11.7	98.9	△16	1,441	15.4
売上総利益	289	20.3	176.0	125	164	15.5	110.3	27	262	18.2
営業利益	173	12.2	267.9	109	64	6.1	118.0	26	147	10.2

※比率・・・売上高は売上構成比、売上総利益及び営業利益は利益率を表示しております。

# 分野別受注残高の推移

＜受注残高の推移＞



＜受注高の推移＞

単位:百万円

	2010年3月期				2011年3月期			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
ソリューション分野	491	766	657	744	655	723	664	980
プロダクト分野	221	231	63	149	192	405	143	268
その他IT関連分野	497	221	247	283	316	316	397	454
合計	1,210	1,219	968	1,177	1,165	1,445	1,205	1,703



# 財政状態(前期末比較)

## 【貸借対照表】

(単位:百万円)

区分	2011年 3月期末		2010年 3月期末	差 額
		構成比		
流動資産	3,824	67.9	3,444	380
固定資産	1,810	32.1	2,245	△435
<有形固定資産>	499	8.8	689	△190
<無形固定資産>	744	13.2	857	△113
<投資その他の資産>	567	10.1	698	△131
資産合計	5,635	100.0	5,690	△55
流動負債	1,783	31.6	1,800	△17
固定負債	211	3.8	342	△130
負債合計	1,994	35.4	2,142	△147
純資産	3,640	64.6	3,547	92
負債・純資産 合計	5,635	100.0	5,690	△55

### 【貸借対照表のポイント】

#### <流動資産>

- ・現預金の増加(227百万円)
- ・受注増に伴う売掛債権の増加(111百万円)

#### <固定資産>

(有形固定資産)

- ・投資一巡により投資額の減少
- ・減価償却費の減少

(無形固定資産)

- ・投資一巡により新規ソフトウェア取得額の減少
- ・減価償却費の減少

#### <負債>

- ・社債の減少(△118百万円)
- ・長期借入金の減少(△46百万円)

#### <純資産>

- ・当期純利益の計上(96百万円)

# キャッシュ・フローの状況

	(単位:百万円)
税金等調整前当期純利益	177
減価償却費	412
のれん償却額	37
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 65
事業整理損失	87
売上債権の増減額(△は増加)	△ 43
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 75
仕入債務の増減額(△は減少)	53
その他	38
小計	622
法人税等の支払額等	△ 20
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>601</b>
有形固定資産の取得による支出	△ 100
無形固定資産の取得による支出	△ 153
資産除去債務の履行による支出	△ 11
その他	124
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 141</b>
社債、借入金の返済による支出	△ 201
配当金の支払額	△ 85
少数株主からの払込みによる収入	100
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 186</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	260
現金及び現金同等物の期首残高	1,275
現金及び現金同等物の期末残高	1,536

## 【キャッシュ・フロー計算書のポイント】

### <営業キャッシュ・フロー>

#### 増加要因

- ・固定資産の取得等による減価償却費の増加
- ・税金等調整前当期純利益の計上
- ・大手量販店の経営統合に伴う事業整理損失の計上

#### 減少要因

- ・受注増によるたな卸資産(仕掛品)の増加

### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

- ・サーバー等の固定資産の取得による支出
- ・資産除去債務の履行による支出

### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

- ・株式会社エス・エフ・アイにおける社債・借入の返済
- ・配当金の支払

## 2. 新中期経営計画

# 中期計画の見直しについて

## 当社を取り巻く状況の変化

※当初、本年度は成長路線への転換を図る計画でしたが、以下のような状況の変化により計画を見直し新中期経営計画(2011年度-2013年度)を策定しております。

### (1) 大手量販店の吸収合併による収益構造の変化

- ◆システム統廃合による取引の縮小
- ◆統合先の新規システム需要見込

### (2) 一層加速する流通サービス業のグローバル化

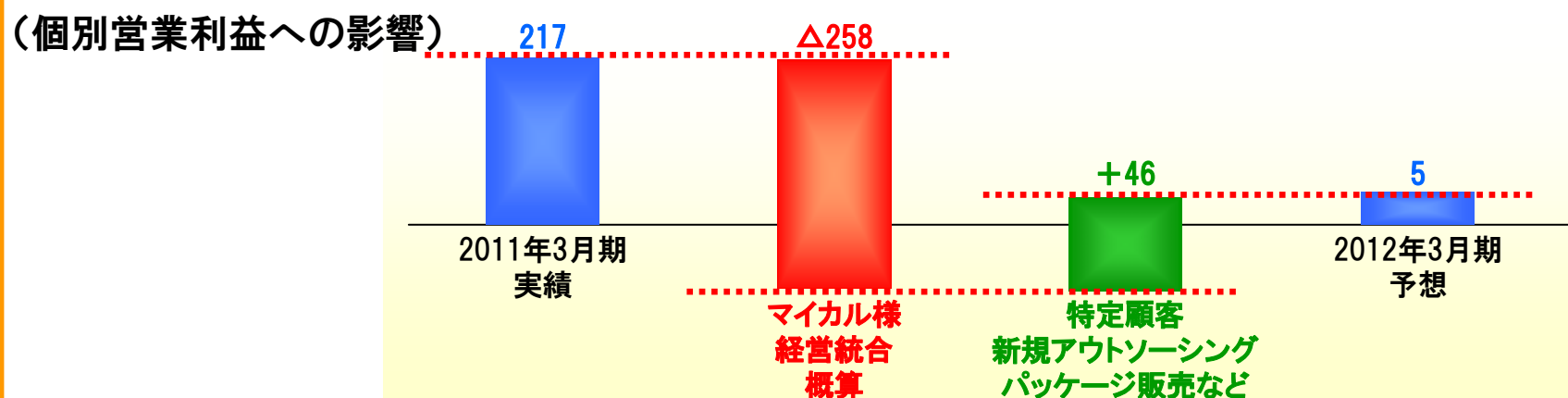
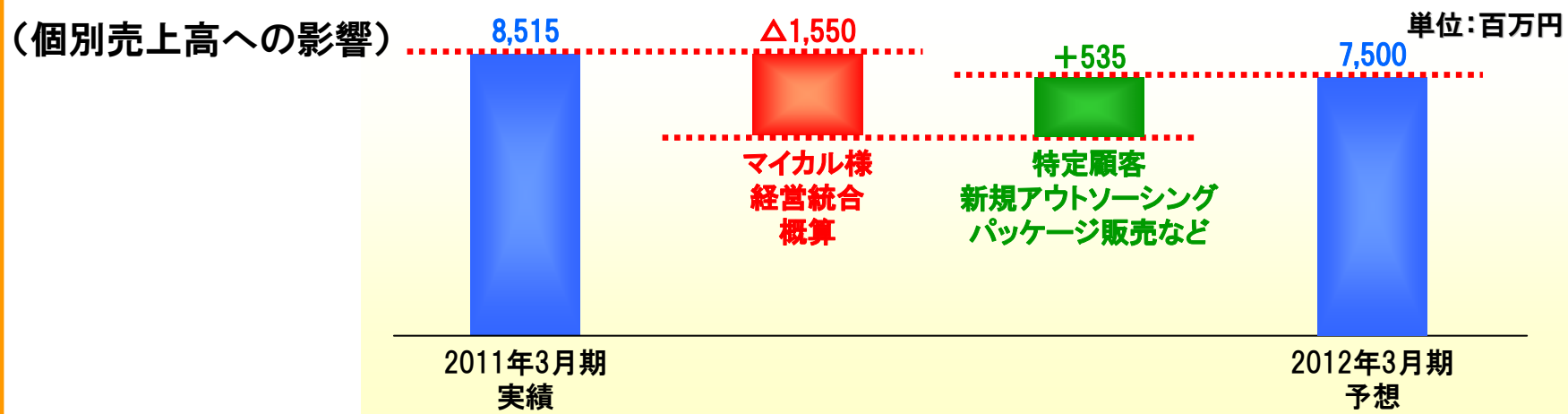
- ◆国内需要の低迷と国内投資の減少
- ◆大手総合小売業グループの中国・アセアン地域での事業拡大

### (3) 震災によるIT投資の抑制・減少

- ◆小売業(東北地区)の震災による業績への懸念
- ◆復興政策が優先されIT投資は不透明

# マイカル様吸収合併の影響について

## 当社を取り巻く状況の変化



※マイカル様の減収分を特定顧客案件とパッケージでリカバリー

# 3つの基本戦略

## 3つの基本戦略

経営基盤の早期回復とグローバル企業として新たな成長ステージへ

### (1) 特定顧客化戦略

- ① 既存特定顧客への深耕
- ② 新規特定顧客の開拓
- ③ スtockビジネスの拡大
- ④ スモールビジネスの展開

### (2) グローバル戦略

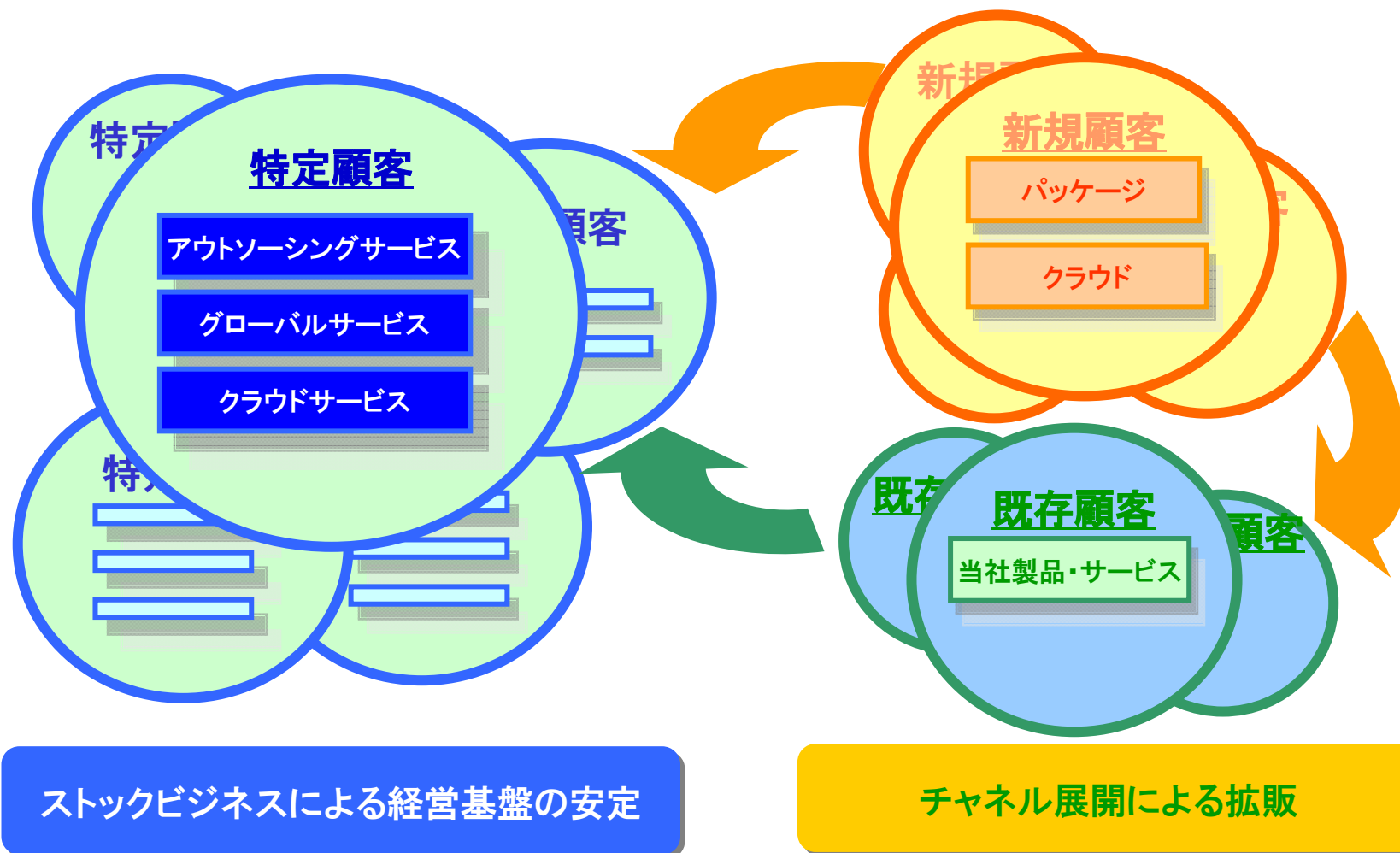
- ① 大手総合小売業グループの中国・アジア地域におけるベストパートナー
- ② 独自のビジネスモデルの展開
- ③ 中国進出を検討している日系企業の支援と特定顧客化
- ④ グローバルパートナーとのアライアンス強化

### (3) 商品・サービスの差別化戦略

- ① プロダクトのクラウド化
- ② グローバル展開に対応した商品化
- ③ 新しいチャネル販売モデルの確立

# 特定顧客化で安定した経営基盤を構築する

## 特定顧客化戦略



## グローバル展開する企業のIT環境を最適化

ASEAN

中国

日本

**VJCグループでグローバル展開をトータルにバックアップ  
アジアITのシナジー効果を発揮**

マレーシアなど  
駐在(展開予定)

上海IDC

杭州

VJC

・ITローカル支援

・ネットワーク監視  
・ICP  
・eコマース  
・回線リセール

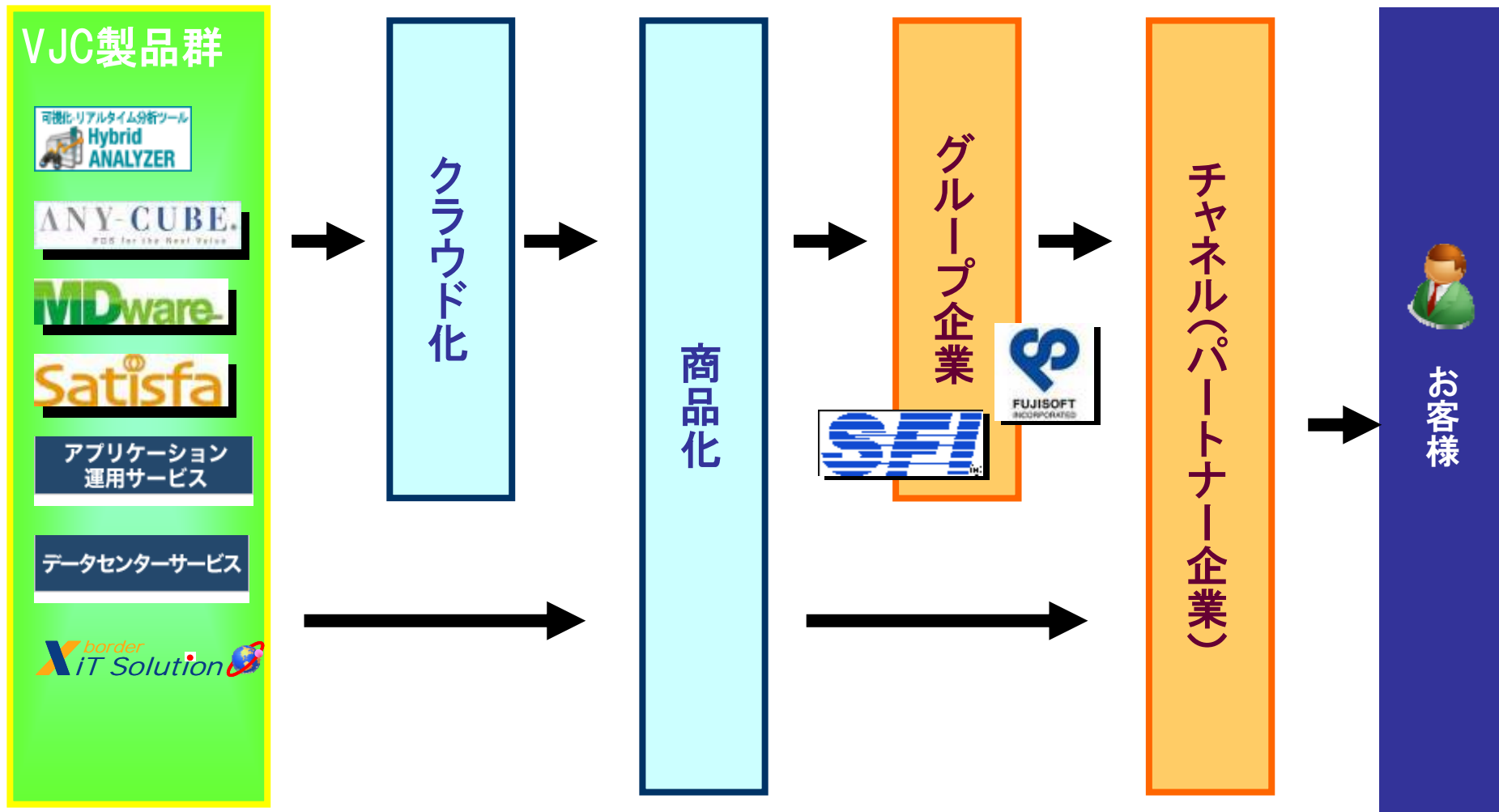
オフショア運用

・ITローカル支援

→ それぞれの国でIT環境を整備するには個別にITベンダーを開拓しなくてはならないが  
ヴィンキュラムは、日本品質のサポートを複数の国を統合し提供します。



## チャネルを活用する



# オリジナリティーを追求した商品戦略で差別化を図る

## ローカライゼーション

大手総合小売業の進出及び進出予定地



### ローカライゼーション

- ✓税制対応...現地税制や商習慣への対応
- ✓通貨対応...マルチ通貨
- ✓言語対応...中国語や英語

### センターサーバー

- ✓遠隔地の管理...集中管理によるIT運用コストの低減およびIT統制

グローバル展開対応  
商品の拡充

# 中期数値フレーム

単位:百万円, %、百万円未満切捨て

連 結	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2009年度(実績)	9,386	70.7	△466	—	△5.0	△439	—	△4.7	△363	—	△3.9
2010年度(実績)	9,273	98.8	222	—	2.4	215	—	2.3	96	—	1.0
2011年度(計画)	8,500	91.7	90	40.4	1.1	80	37.1	0.9	60	61.9	0.7
2012年度(計画)	9,500	111.8	358	397.8	3.8	353	441.3	3.7	215	358.3	2.3
2013年度(計画)	11,200	117.9	455	127.1	4.1	440	124.6	3.9	268	124.7	2.4

VJC	売上高		営業利益			経常利益			当期純利益		
		前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
2009年度(実績)	8,832	67.1	△357	—	△4.0	△351	—	△4.0	△297	—	△3.4
2010年度(実績)	8,515	96.4	217	—	2.6	218	—	2.6	35	—	0.4
2011年度(計画)	7,500	88.1	5	2.3	0.1	0	—	—	△11	—	△0.1
2012年度(計画)	8,200	109.3	260	5,200.0	3.2	255	—	3.1	140	—	1.7
2013年度(計画)	9,200	112.2	300	115.4	3.3	290	113.7	3.2	160	114.3	1.7

# 3. 2012年3月期の業績予想

# 2012年3月期 数値計画(連結・個別)

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

連結	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	8,500	—	91.7	4,215	—	94.1	4,285	—	89.4
売上総利益	1,827	21.5	94.2	885	21.0	95.6	942	22.0	92.8
販売管理費	1,737	20.4	101.1	860	20.4	100.2	877	20.5	102.0
営業利益	90	1.1	40.4	25	0.6	36.9	65	1.5	41.9
経常利益	80	0.9	37.1	20	0.5	26.1	60	1.4	43.1
当期純利益	60	0.7	61.9	13	0.3	137.0	47	1.1	53.7

個別	通期			上期			下期		
	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比	計画値	売上比	前年比
売上高	7,500	—	88.1	3,780	—	93.6	3,720	—	83.1
売上総利益	1,471	19.6	88.0	712	18.8	92.3	759	20.4	84.2
販売管理費	1,466	19.5	100.8	717	19.0	100.5	749	20.1	101.0
営業利益	5	0.1	2.3	△5	△0.1	—	10	0.3	6.3
経常利益	0	—	—	△7	△0.2	—	7	0.2	4.6
当期純利益	△11	△0.1	—	△10	△0.3	—	△1	△0.0	—

# 株主様への利益還元について

## 配当方針

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、企業価値の向上と将来の事業拡大のための内部留保を勘案しつつ、安定的な配当を基本方針としております。

内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のための新規事業及び新製品の開発に対して有効に投資してまいります。

業績に連動した利益還元を実施しつつ、安定的な配当の維持に努めてまいります。

当期の配当金額については、先行きが不透明な状況でございますので、ビジネスの進捗状況と今後の業績を鑑みた上で、1株当たりの配当金額を確定させていただきたいと考えております。



## ＜本資料取扱のご注意＞

---

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

ヴィンキュラム ジャパン株式会社  
管理部 財務IRグループ  
e-mail : [ir@mail.vinculum-japan.co.jp](mailto:ir@mail.vinculum-japan.co.jp)